

紀 要

第 6 号

目 次

粟津湖底遺跡出土の木質遺物	(伊東隆夫)
弥生時代の木偶と祭祀 —中主町湯ノ部遺跡出土木偶から—	(濱 修)
県内における磨製石斧の消滅年代について	(井上洋介)
土師器甕の変遷とその背景 —近江型土師器成立への諸段階—	(大崎哲人)
草津市笠山古窯出土遺物の紹介	
—笠山古窯の位置づけをめぐって・瀬田丘陵生産遺跡群の検討—	
	(畑中英二)
倭京の実像 —飛鳥地域における京の成立過程—	(相原嘉之)
近江八幡市大手前・御所内遺跡出土の銅印をめぐって	(田路正幸)
将棋史研究ノート(3) —王将と玉将—	(三宅 弘)
近江国坂田荘の開発(中) —長浜市大東遺跡を中心として—	(北村圭弘)
滋賀県八日市・永源寺地域における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布	
—八日市市・永源寺町石造美術石材分布調査概要—	(兼康保明)
滋賀県出土の埴輪資料集(その3)	(稲垣正宏)

1993. 3

財団法人 滋賀県文化財保護協会

粟津湖底遺跡出土の木質遺物

京都大学木質科学研究所 伊 東 隆 夫

本遺跡は、滋賀県に所在する琵琶湖の南端の瀬田川流出口付近の湖底にあり、粟津貝塚と呼ばれることもある。

当該調査の対象となったのは縄文時代中期初頭に形成されたと考えられている第3貝塚および植物遺存体層、縄文時代早期の自然流路などである。

今回、滋賀県文化財保護協会の依頼により、木製品や木片等の出土木質遺物100点の樹種を同定することになった。樹種同定結果の一覧を表1に示す。また、樹種別の出土数を表2に示す。なお、資料の出土地点を示すために第1図・第2図を掲げた。表1と照合されたい。

表2からわかるように、針葉樹はカヤ、モミ、マツ(二葉)、スギがそれぞれ1点ずつ出土するのみで目だった特徴はみられない。一方、広葉樹ではコナラ節が29点出土しており、飛び抜けて多いのが目だつ。コナラ節にはコナラやミズナラが含まれるがまずコナラが該当すると考えられる。その他にはブナ科に属するクリ、カシ、クヌギ節が多いほか、トネリコが6点、サカキが5点、ムラサキシキブが4点出土している。ハンノキの仲間も8点出土し、ヤナギが4点みられることから遺跡近辺は当時水際に位置していた可能性が高い。

植物種子の研究ではトチノキ、ドングリ、クルミ等の堅果類が主体であったようであるが木質遺物の樹種同定からはブナ科のコナラ、クヌギ、カシなどのいわゆるドングリを生産する樹種が結構多く出土していることと符号するところがある。また、クリやシイノキのように食糧となる種子を生産する樹種も出土しているが、種子の調査からもクリが検出されていることと一致する。これに反し、トチノキやクルミといった食生活の一端を担う樹種は本調査の範囲では確認されていない。これは、調査個体数が100点に限られていることによるのかも知れない。今後さらに調査区域を広げるなりあるいは試料の点数を増加するなりすることにより、よりはっきりした傾向が得られるものと期待している。

最後に、ただ1点のみであるがキリが出土したことについて言及しておきたい。植物分類学者によれば⁽¹⁾⁻⁽⁴⁾、キリの原産地は不明であるとか日本および朝鮮で古くより栽培されていたとされている。筆者はキリが弥生中期初頭に属する鬼鹿川遺跡から4点出土したときに日本でも自生していたのではないかと推論をおこなった⁽⁵⁾。今回、縄文時代早期の自然流路からキリが出土したことから考えて古くより日本に自生していたことがよりはっきりしてきたと言えるのではなからうか。

なお、以下に樹種同定の根拠を簡単に述べる。樹種の分類ならびに学名の記述は北村四郎・村田 源の原色日本植物図鑑 (I・II) ⁽⁶⁾ によった。

カヤ (*Torreya nucifera* S. et Z.): 樹脂道ならびに樹脂細胞を欠く。仮道管の内壁にらせん肥厚がみられる。

表1 粟津湖底遺跡(南湖粟津航路(2)) 出土材の樹種同定結果

試料番号	出土地点名	採取時点での表記	樹種	出土年月日
1	第3貝塚②区	貝塚内4D区3a層	クヌギ節	910406
2	第3貝塚②区	貝塚内4D区第3a層 植物遺体	ヤナギ	910406
3	第3貝塚②区	貝塚内4CD区3b層	サカキ	910411
4	第3貝塚②区	貝塚内4D区出土No.3 木片	カシ	910411
5	第3貝塚②区	貝塚内4D区出土No.7 木片	カシ	910411
6	第3貝塚④区	貝塚内6D区31b層	樹皮(スギ?)	910513
7	第3貝塚④区	貝塚内④6D区39層 w-1	サカキ	910513
8	第3貝塚④区	貝塚内④6D区39層 w-3	樹皮(広葉樹)	910528
9	第3貝塚④区	貝塚内6FE区粘土層	コナラ節	910803
10	第3貝塚④区貝塚下粘土層	貝塚内6DE区貝塚下粘土層	コナラ節	
11	第3貝塚④区貝塚下粘土層	貝塚内6F区貝塚下粘土層	コナラ節	
12	第3貝塚⑤区	貝塚内7DE灰色粗砂	コナラ節	910522
13	第3貝塚⑤区	貝塚内7DE72層 w-1	クヌギ節	910529
14	第3貝塚⑤区表面清掃土	貝塚内7DE区表面清掃土	ムラサキシキブ	910510
15	貝塚下植物遺存体層⑤区	植物層内7C区212層(こげた跡あり)	マツ(二葉)	910705
16	貝塚下植物遺存体層⑤区	植物層内7C区212層	ハゼノキ	910705
17	第3貝塚⑥区	貝塚内8DE区66層	カシ	910522
18	第3貝塚⑥区	貝塚内⑧8DE区67層	コナラ節	910522
19	第3貝塚⑥区	貝塚内8DE区67層	樹皮(広葉樹)	910527
20	第3貝塚⑦区	貝塚内9D区228層	スギ	910715
21	第3貝塚⑧区ベース直上層	貝塚内10D区ベース直上層 木器	カヤ	910415
22	第3貝塚⑧区	貝塚内10D区17層 w-1 (杭)破片	アサダ	910409
23	第3貝塚	貝塚内?区11層	コナラ節	
24	貝塚下植物遺存体層③区	5-DE区236層	クリ	910717
25	第3貝塚	貝塚内第1層	ケヤキ	9102
26	第3貝塚⑧区	貝塚内10D第8層 流木	シイ	910301
27	第3貝塚⑧区	貝塚内10D第8層 流木	バラ科	910301
28	第3貝塚IIトレンチ	第IIトレンチ第3層	シイ	910221
29	第3貝塚IIIトレンチ	IIIトレ11層 木	ムラサキシキブ	901222
30	第3貝塚IIIトレンチ	IIIトレ12層	サカキ	901222
31	第3貝塚IVトレンチ	IVトレ13層 木製品2	カヤ	901222
32	第3貝塚IVトレンチ	IVトレ9層 加工痕のある木	モミ	901221
33	第3貝塚VIIトレンチ	貝塚内VIIトレ2層	カシ	910302
34	第3貝塚VIIトレンチ	貝塚内7EF区VIIトレ第22層	ヤナギ	910221
35	第3貝塚VIIトレンチ	貝塚内VIIトレ第24層 木	ムラサキシキブ	910221
36	第3貝塚①区	貝塚内3D第2層⑧ 木片	ヤナギ	910327
37	第3貝塚⑧区	貝塚内10D第8層の下層(未命名)	サカキ	910313
38	第3貝塚⑧区	貝塚内10D第8層C 木-④	カシ	910314
39	早期自然流路	Iトレ 西4下灰層	コナラ節	910715
40	早期自然流路	Iトレ 西壁2黒層	コナラ節	910717
41	早期自然流路	Iトレ 西2グリット上黒灰	ムラサキシキブ	910625
42	早期自然流路	2トレ 西セクション2黒灰	カツラ	910808
43	早期自然流路	3トレンチ 5区第3黒	カエデ	910715
44	早期自然流路	3トレ 6区第2黒	トネリコ	910724
45	早期自然流路	3トレ 6区1黒	シデ	910722
46	早期自然流路	3トレ 6区2黒	クリ	910709
47	早期自然流路	3トレ 6区2黒	クリ	910723
48	早期自然流路	3トレ 11区1黒	ハンノキ	910722
49	早期自然流路	3トレ 11区2黒	ハンノキ	910710
50	早期自然流路	3トレ 12区1黒	クリ	910722
51	早期自然流路	3トレ 12区2黒	トネリコ	910724
52	早期自然流路	早期II 3トレ14区2黒	コナラ節	910715
53	早期自然流路	3トレ 20区3黒	コナラ節	910723

試料番号	出土地点名	採取時点での表記	樹種	出土年月日
54	早期自然流路	3トレ 20区黒褐色層	トネリコ	910719
55	早期自然流路	3トレ 20区黒褐色層	コナラ節	910719
56	早期自然流路	3トレ 21区第1黒	コナラ節	910719
57	早期自然流路	3トレ 22区2黒	ハンノキ	910722
58	早期自然流路	東4区 4黒色粘土層	コナラ節	910702
59	早期自然流路	東7区 灰黒	ハンノキ	910710
60	早期自然流路	東9区 肩砂混	コナラ節	910709
61	早期自然流路	東14 黒色粘土	ハンノキ	910703
62	早期自然流路	東15 青灰粘土 木ノ葉	カシ	910711
63	早期自然流路	東16 10黒色粘土	エゴノキ	910702
64	早期自然流路	東17 砂黒層	サクラ	910709
65	早期自然流路	東18 灰黒	トネリコ	910712
66	早期自然流路	東18	コナラ節	910717
67	早期自然流路	東18 砂黒層	サクラ	910715
68	早期自然流路	東19 肩砂混層	シャシャンボ	910717
69	早期自然流路	東19 肩砂混層	ムクロジ	910717
70	早期自然流路	東23	コナラ節	910717
71	早期自然流路	東26 黒色粘土	グリ	910702
72	早期自然流路	東35 礫黒層	コナラ節	910710
73	早期自然流路	東29	ハンノキ	910717
74	早期自然流路	東28 砂黒層	ハンノキ	910715
75	早期自然流路	東28	コナラ節	910717
76	早期自然流路	東36 砂黒層	コナラ節	910711
77	早期自然流路	東47	コナラ節	910729
78	早期自然流路	東47	コナラ節	910729
79	早期自然流路	東 砂黒下青灰	コナラ節	910709
80	A 4区	A 4区 S B-1 埋土	ツバキ	910221
81	A 5区	A 5 東南Q 暗褐色細砂 流木1	ヤナギ	910226
82	A 5区	A 5 東南Q 暗灰色細砂 流木2	ムクノキ	910226
83	B 4区	B 4区 北西Q-15区	樹皮(広葉樹)	910131
84	早期自然流路 試掘坑	C 3 早期流路 試掘坑	サカキ	910729
85	早期自然流路	C 3 早期流路第1トレンチ 第1層黒色粘土層A 16~18m	トネリコ	910125
86	早期自然流路	C 3 早期流路第1トレンチ 第1層B淡灰色砂混粘土層 木材No.3	クスノキ科	910128
87	早期自然流路	C 3 早期流路第1トレンチ 第1層B灰色砂混粘土層	クスノキ科	910128
88	早期自然流路	C 3 早期流路第1トレンチ 第2層黒褐色粘土層18~20m	トネリコ	910128
89	早期自然流路	C 3 早期流路第1トレンチ 第1層灰色砂混黒色粘土層B 木材No.4	クスノキ科	910128
90	早期自然流路下 砂レキ層	C-4区早期下層 砂レキ層	コナラ節	
91	早期自然流路	B-5区 3黒	コナラ節	910710
92	中央トレンチ	Bセクション D-2内	樹皮(広葉樹)	911227
93	中央トレンチ	中央排水溝 下黒灰粘質土	コナラ節	910628
94	早期自然流路	0+30 (W, 9) 黒褐色粘土+明灰褐色粗砂	キリ	910514
95	早期自然流路	早期II 西トレ 青灰色粘土 い	コナラ節	
96	早期自然流路	早期II 西トレ 青灰色粘土 ろ	コナラ節	
97	早期自然流路	早期II 西トレ 青灰色粘土 は	コナラ節	
98	早期自然流路	早期II 西トレ 青灰色粘土	コナラ節	
99	早期自然流路	図I7-5 暗茶褐色粘質土	ハンノキ	910518
100	第3貝塚③区	5 E区 Point下 貝層	クヌギ節	910804

** 試料番号80~83、92、93の所属時期に関しては検討中である。

** 「出土地点名」は、原則として平成4年3月刊行の概要報告書に従った。

表2 樹種別出土数

樹種	点数
カヤ	1点
モミ	1点
マツ(二葉)	1点
スギ	1点
樹皮(スギ?)	1点
ヤナギ	4点
シデ	1点
アサダ	1点
ハンノキ	8点
カシ	6点
コナラ節	29点
クヌギ節	3点

樹種	点数
クリ	5点
シイノキ	2点
ケヤキ	1点
ムクノキ	1点
カツラ	1点
クスノキ科	3点
サクラ	2点
バラ科	1点
ハゼノキ	1点
カエデ	1点
ムクロジ	1点
ツバキ	1点

樹種	点数
サカキ	5点
シャシャンボ	1点
エゴノキ	1点
トネリコ	6点
ムラサキシキブ	4点
キリ	1点
樹皮(広葉樹)	4点

モミ (*Abies firma* S. et z.): 正常の樹脂道や放射仮道管を欠く。放射柔細胞の壁は厚い。

マツ(二葉) (*Pinus spp.*; *Diploxylon*): 樹脂道を有する。放射仮道管が存在し、その内壁には鋸歯状突起がみられる。また、分野壁孔は窓状となる。

スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don): 樹脂道や放射仮道管を欠く。樹脂細胞は晩材部に接線方向に点在する。分野壁孔は典型的なスギ型となる。

ヤナギ (*Salix spp.*): 散孔材。単穿孔。放射組織は単列同性。

シデ (*Carpinus spp.*): 散孔性放射孔材。単穿孔および階段穿孔。道管の内壁にらせん肥厚。集合放射組織がみられる。

アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.): 散孔材。単穿孔。道管および繊維状仮道管にらせん肥厚。

ハンノキ (*Alnus spp.*): 散孔材。階段穿孔。放射組織は単列同性。集合放射組織がみられる。

カシ (*Quercus spp.*, *Cyclobalanopsis*): 放射孔材。単穿孔。単列放射組織と広放射組織がある。

コナラ節 (*Quercus spp.*, *Lepidobalanus* Endlicher Sect. *Cerris* Loudon): 環孔材。孔圏外小道管は小さく多数火炎状に分布。単穿孔。単列放射組織と広放射組織がみられる。

クヌギ節 (*Quercus spp.*, *Lepidobalanus* Endlicher Sect. *Prinus* Loudon): 環孔材。孔圏外小道管壁は厚い。単穿孔。単列放射組織と広放射組織がみられる。

クリ (*Castanea crenata* S. et Z.): 環孔材。単穿孔。孔圏外小道管は火炎状に配列。

シイノキ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* NaKai): 環孔性放射孔材。孔圏外小道管は火炎状。単穿孔。放射組織は単列同性。

ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino): 環孔材。孔圏道管は1列。単穿孔。小道管にらせん肥厚。放射組織は異性で1-8列。

ムクノキ (*Aphananthe aspera* Planch.): 散孔材。単穿孔。軸方向柔組織は連合翼状ないし帯状。放射組織は異性で1-5列。

カツラ (*Cercidiphyllum japonica* S. et Z.): 散孔材。階段穿孔。道管放射組織間壁孔も階段状。放射組織は異性。

クスノキ科 (Lauraceae) : 散孔材。周囲柔組織。単穿孔。油細胞。道管にチロースおよびらせん肥厚あり。なお、遺跡出土材は道管径ならびにその他の特徴からしてダンコウバイに類似する。

サクラ (*Prunus spp.*) : 散孔材。単穿孔。道管内壁にらせん肥厚。道管内腔に着色物質。

バラ科 (Rosaceae) : 散孔材。単穿孔。道管内壁にらせん肥厚。道管内腔に着色物質。垂直細胞間道がみられる。

ハゼノキ (*Rhus succedanea* L.) : 散孔材。道管は放射方向に2-4個複合する。道管の壁は厚い。単穿孔。放射組織は異性で、ほぼ2列。

カエデ (*Acer spp.*) : 散孔材。単穿孔。道管にらせん肥厚。木繊維の壁厚の違いによる特徴的な模様。

ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.) : 環孔材。単穿孔。小道管にらせん肥厚。軸方向柔細胞は帯状。放射組織は同性。

ツバキ (*Camellia japonica* L.) : 散孔材。道管は極めて小さい。階段穿孔。道管にらせん肥厚。道管放射組織間壁孔は階段状。放射組織に大形の結晶細胞がみられる。

サカキ (*Cleyera japonica* Thunb. pro parte emend. S. et Z.) : 散孔材。道管は極めて小さい。階段穿孔。道管にらせん肥厚。放射組織は異性でほぼ単列。

シャシャンボ (*Vaccinium bracteatum* Thunb.) : 散孔材。単穿孔および階段穿孔。道管にらせん肥厚。放射組織は単列と多列が混ざる。

エゴノキ (*Styrax japonica* S. et Z.) : 散孔材。階段穿孔。軸方向柔細胞は年輪後半で接線状。放射組織は異性。

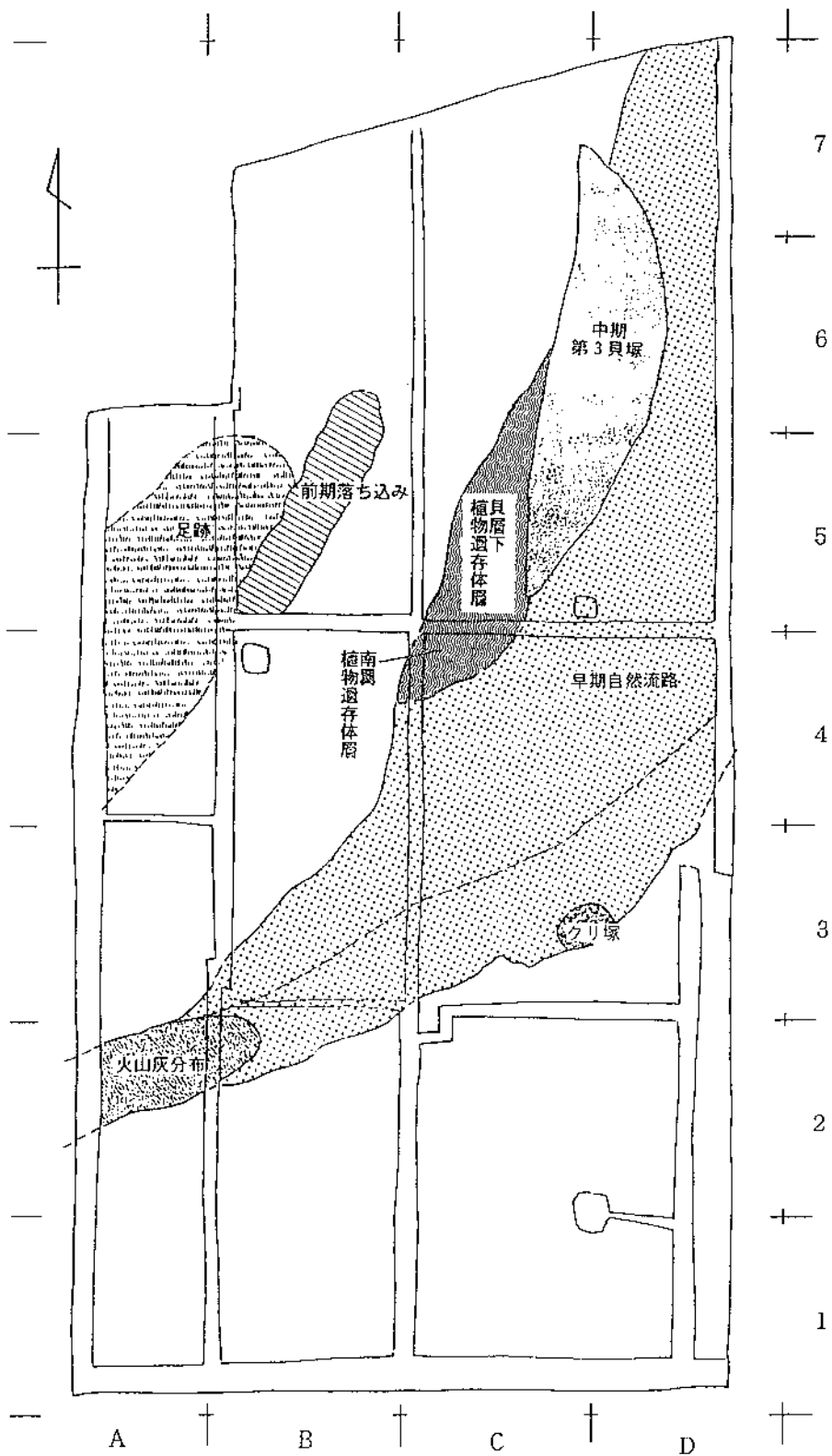
トネリコ (*Fraxinus japonica* Blume) : 環孔材。孔圏は1列。孔圏外小道管の壁は厚い。放射組織は同性。

ムラサキシキブ (*Callicarpa japonica* Thunb.) : 散孔材。単穿孔。放射組織は異性。

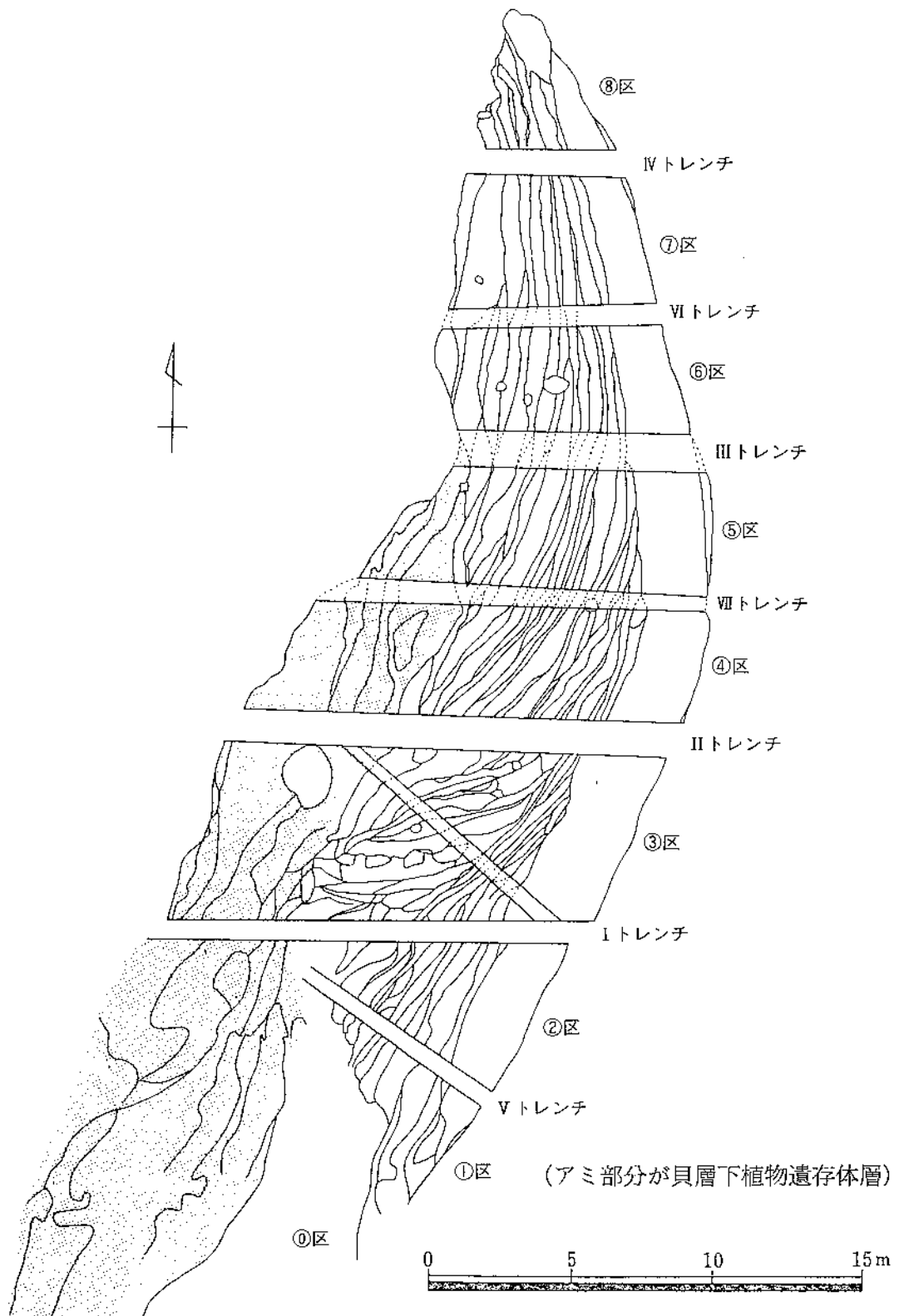
キリ (*Paulownia tomentosa* Steud.) : 環孔材。孔圏は広い。単穿孔。チロースあり。翼状柔組織が顕著(写真35)。放射組織は板目でみると先端がときに角張る(写真36)。遺跡出土材は直径3-4センチメートルの棒状であり、すべて当年に形成された木部からなっており、随も含まれていた。したがって、年輪界はみられなかった。

註

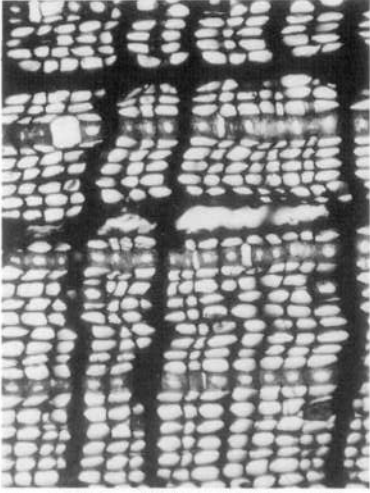
- (1) 上原敬二『樹木大図説』有明書房 1959年
- (2) 北村四郎・村田 源『原色日本植物図鑑木本編 (I・II)』保育社 1971年
- (3) 牧野富太郎『新日本植物図鑑』北隆館 1979年
- (4) 大井次三郎『日本植物誌』至文堂 1953年
- (5) 伊東隆夫・林 昭三・島地 謙「鬼虎川遺跡から出土した建築用材の樹種」(『鬼虎川遺跡第7次発掘調査報告3-遺構編-』財団法人東大阪市文化財協会 頁55-72 1984年)



第1図 栗津湖底遺跡（南湖栗津航路(2)）調査区 地区割り図



第2図 粟津湖底遺跡、第3貝塚・貝層下植物遺存体層全体図



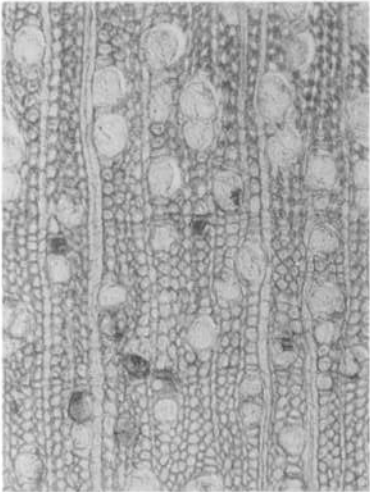
1. 試料6 樹皮(スギ?) ×80



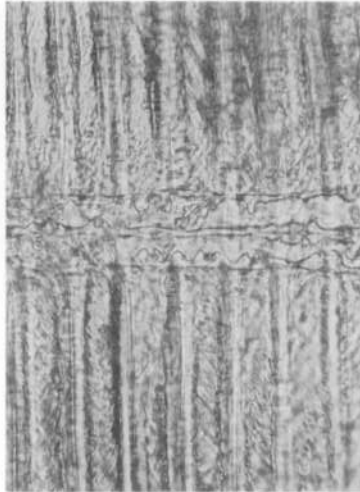
2. 試料11 コナラ節 ×30



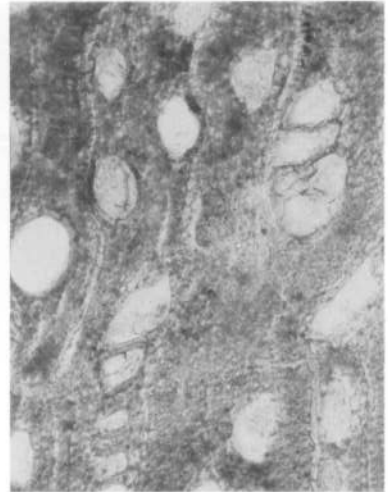
3. 試料13 クヌギ節 ×80



4. 試料14 ムラサキシキブ ×80



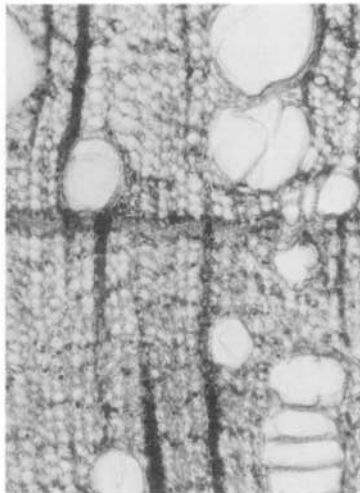
5. 試料15 マツ(二葉) ×330



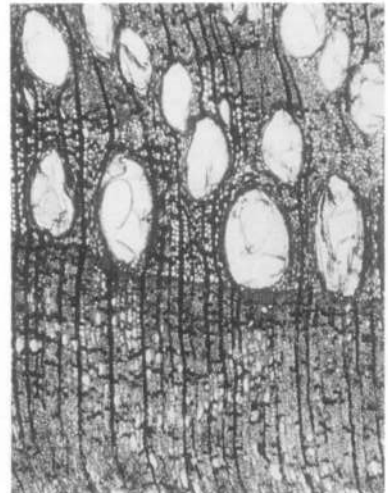
6. 試料16 ハゼノキ ×80



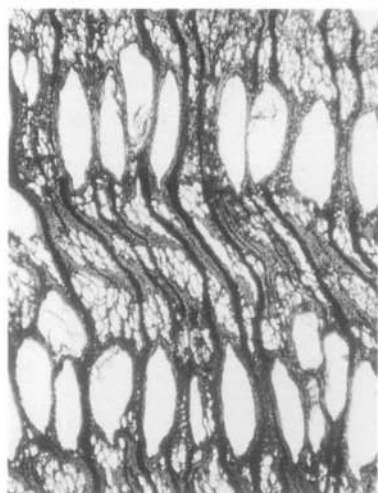
7. 試料20 スギ ×330



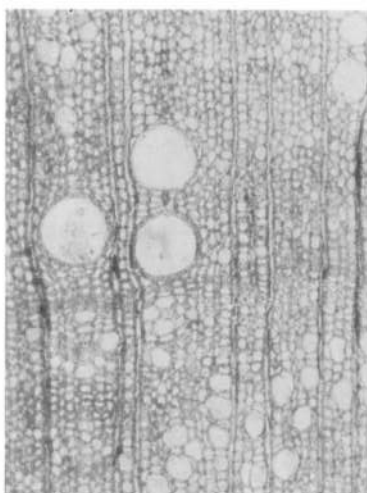
8. 試料22 アサダ ×80



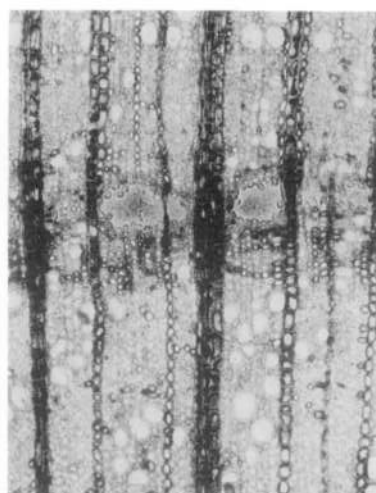
9. 試料24 クリ ×30



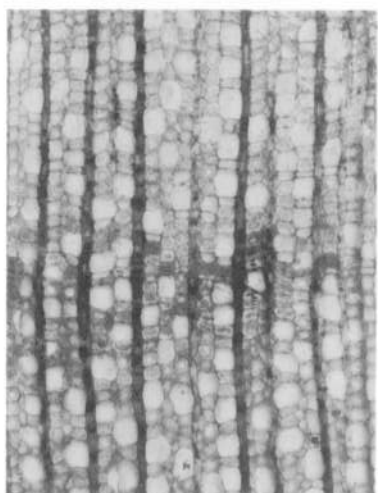
10. 試料25 ケヤキ ×30



11. 試料26 シイノキ ×80



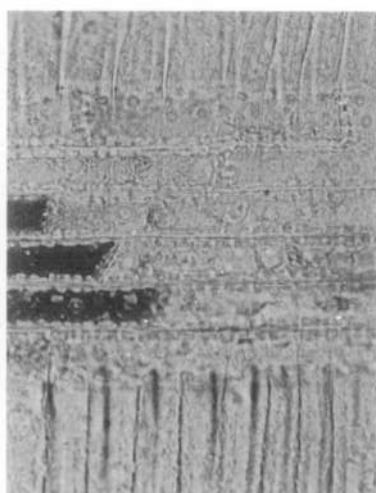
12. 試料27 バラ科 ×80



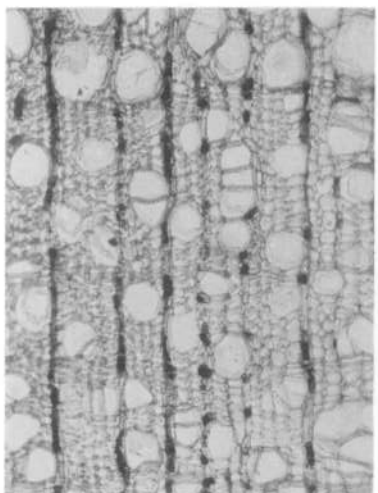
13. 試料30 サカキ ×80



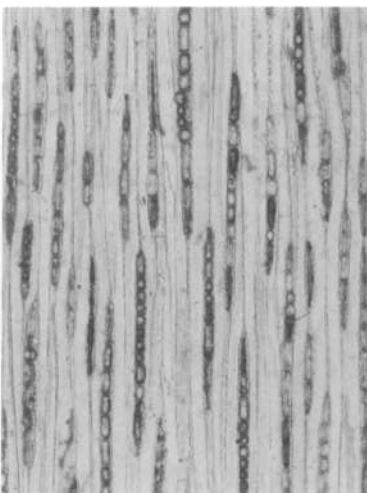
14. 試料31 カヤ ×160



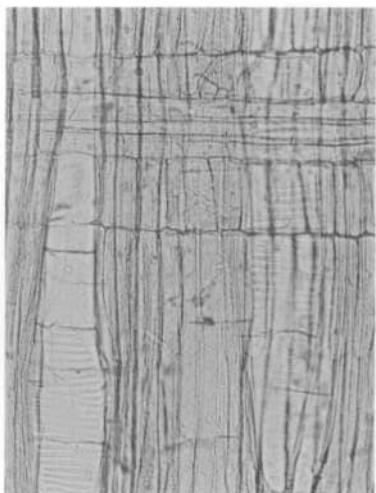
15. 試料32 モミ ×330



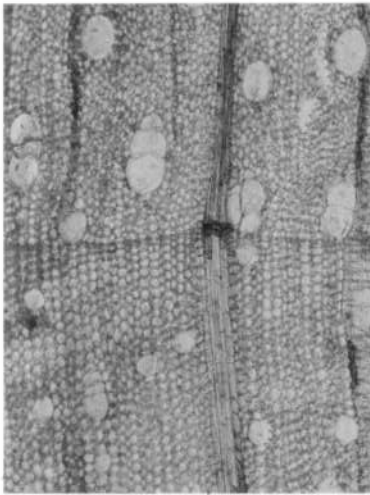
16. 試料34 ヤナギ ×80



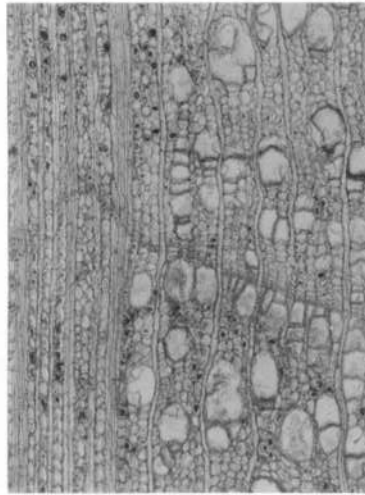
17. 試料37 サカキ ×80



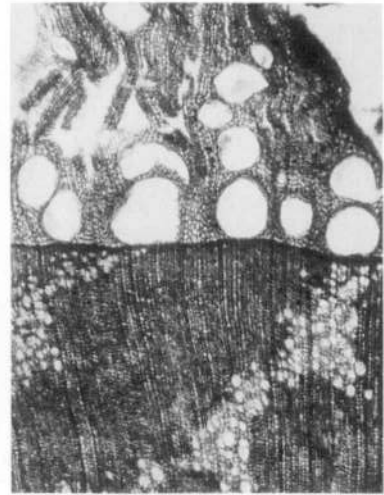
18. 試料42 カツラ ×160



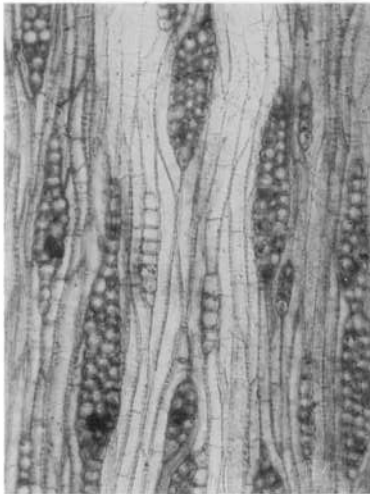
19. 試料43 カエデ ×80



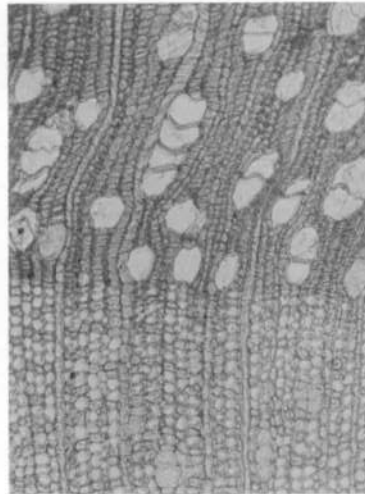
20. 試料45 シデ ×80



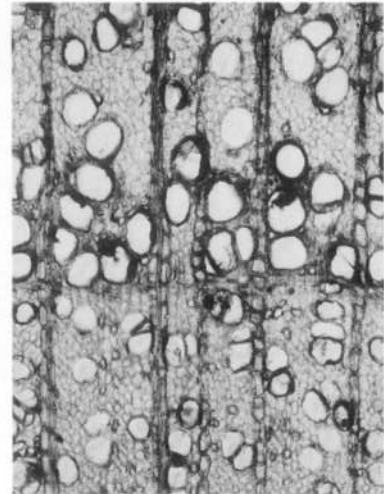
21. 試料50 クリ ×30



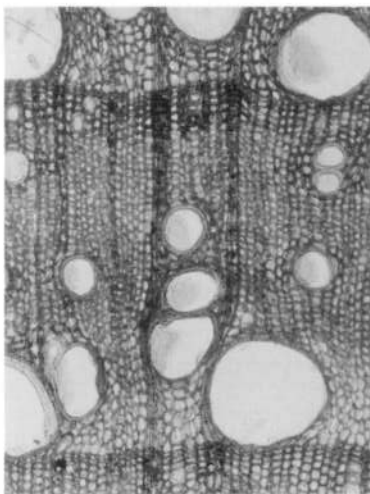
22. 試料54 トネリコ ×80



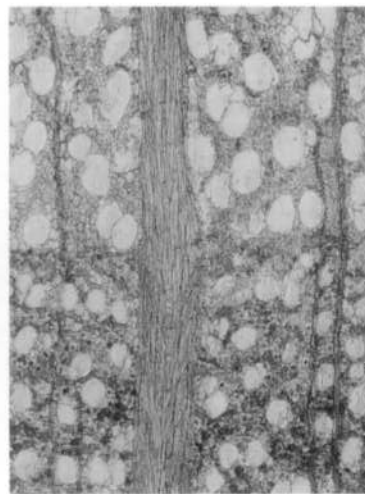
23. 試料63 エゴノキ ×80



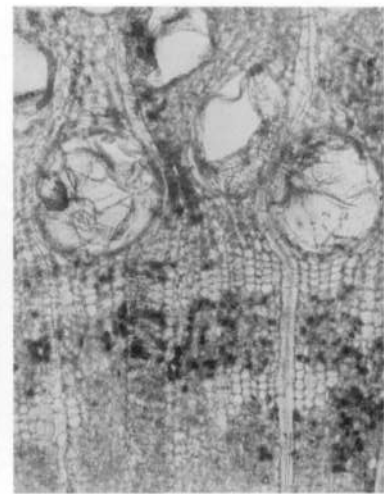
24. 試料64 サクラ ×80



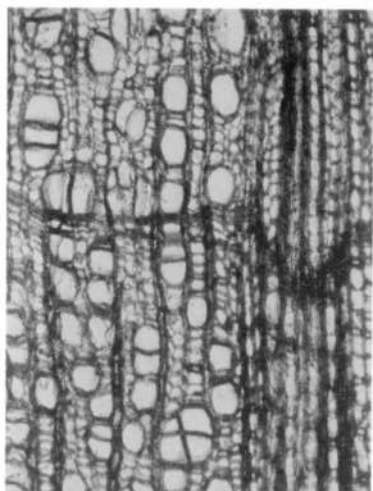
25. 試料65 トネリコ ×80



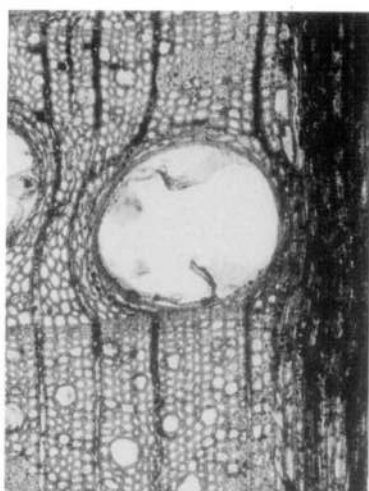
26. 試料68 シャシャンボ ×80



27. 試料69 ムクロジ ×80



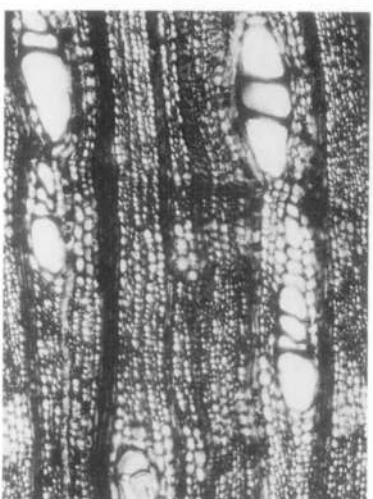
28. 試料73 ハンノキ ×80



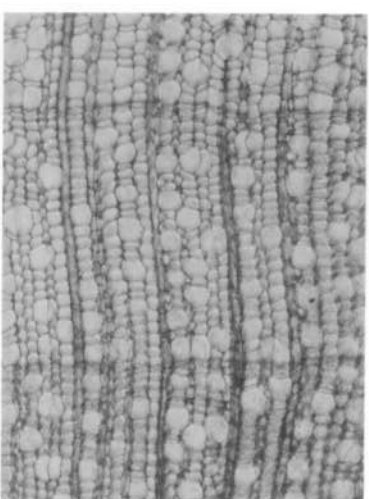
29. 試料77 コナラ節 ×80



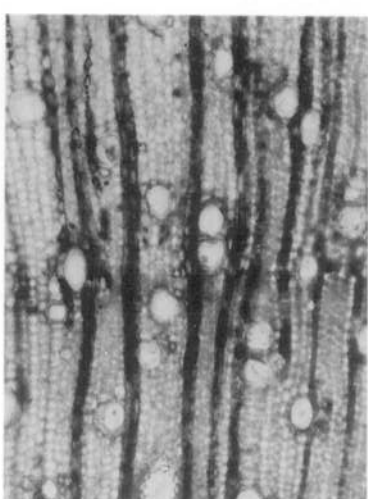
30. 試料80 ツバキ ×160



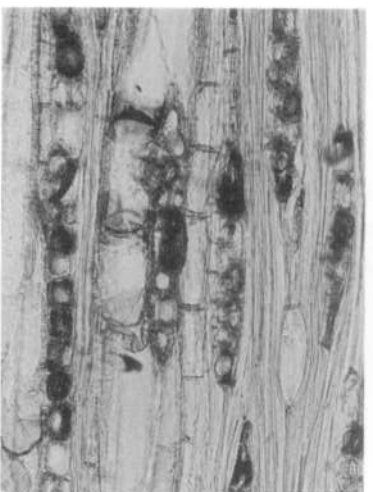
31. 試料82 ムクノキ ×80



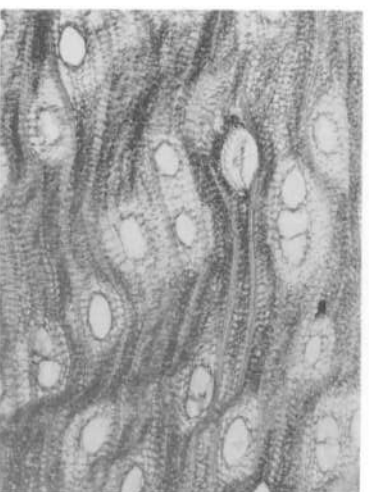
32. 試料84 サカキ ×80



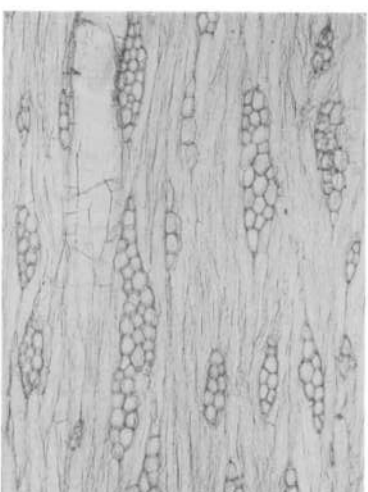
33. 試料86 クスノキ科 ×80



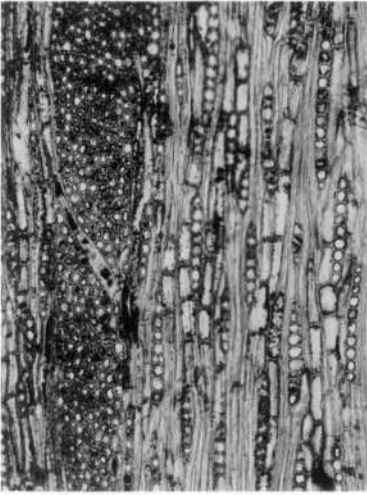
34. 試料89 クスノキ科 ×160



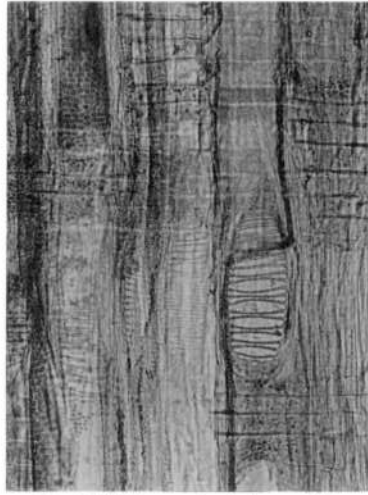
35. 試料94 キリ(木口) ×35



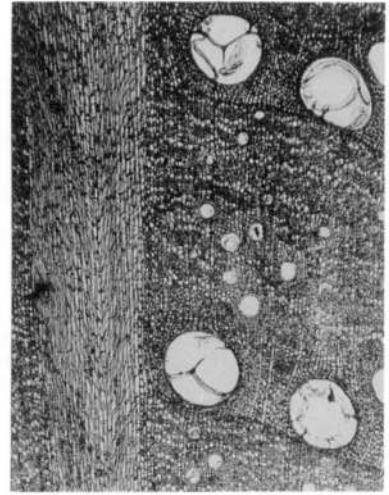
36. 試料94 キリ(板目) ×80



37. 試料97 コナラ節 ×80



38. 試料99 ハンノキ ×160



39. 試料100 クヌギ節 ×30

編集後記

今年の『紀要』は例年になく原稿の集まりが早かった。これも偏に各執筆者の日々の精進の賜物か。

今後も、洛陽の梓価を高めるような『紀要』であり続けたい。

編集者

平成5年3月 初版
平成6年3月 2刷

紀 要 第 6 号

編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印 刷 宮川印刷株式会社
大津市富士見台3番18号
Tel(0775)33-1241